

科目名称 (Course Title)				担当教員(Instructor)	
工業簿記				井上 直樹	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
前学期	2 単位	2 年次	講義	無	科目等履修・聴講
授業の概要 (Course Description)					
<p>工業簿記は、製造業の経営活動を複式簿記により記録・計算し、その結果を明らかにすることが中心となる。会社の資産、負債、純資産の増加・減少を記録・計算し、それらを財務諸表へ表示することが主目的である点は商業簿記と同じであるが、工業簿記は、経営内部活動としての製造活動から生じる様々な取引の記録・計算が含まれる点に特徴がある。</p> <p>本講義では、製造業における工業簿記を主な対象としているが、営利・非営利、業種などを問わず、各主体における主に製造活動上の問題や課題の発見につなげることを目的とする。また、問題や課題解決のために、製造原価情報を適切かつ的確に収集・分析することを目指す。</p>					
授業の到達目標 (Course Objectives)					
<p>工業簿記・原価計算の基礎的理解と記帳ができる。</p> <p>工業簿記の理解や分析は、自分の手を動かしてようやく身に付くものであるため、特に、日商簿記検定試験を受験する学生は、講義外において、できるだけ多くの問題を解く必要がある。</p>					
授業計画 (Course Schedule)					
第 1 回	ガイダンスと工業簿記の全体像				
第 2 回	工業簿記のしくみ				
第 3 回	材料費計算				
第 4 回	労務費計算				
第 5 回	経費計算				
第 6 回	製造間接費計算				
第 7 回	部門費計算				
第 8 回	個別原価計算				
第 9 回	総合原価計算(1)				
第 10 回	総合原価計算(2)				
第 11 回	直接原価計算(1)				
第 12 回	直接原価計算(2)				
第 13 回	製品の受払い、営業費計算、工場会計の独立				
第 14 回	総合問題演習と解説				
第 15 回	これまでの内容のまとめ				
授業時間外学習 (Supplementary Activities)					
<p>授業ごとに前回授業内容に関する小テストを実施するため、毎回1時間程度の復習をしておくこと。</p> <p>次回講義の予習として、テキストの該当箇所を1時間程度事前に読んでおくこと。</p> <p>実際に仕訳をノートに書き、電卓を使って問題を解くことが、工業簿記の理解と上達につながる。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
期末試験(80%) 講義中の小テスト(10%) 授業態度(10%)	秀：100点 - 90点 優：89点 - 80点 良：79点 - 70点 可：69点 - 60点 不可：59点 - 0点
テキスト (Textbook)	【書名】 検定簿記講義/2級工業簿記 【著者】 岡本清ほか [平成30年度版] 【出版社】 中央経済社 【出版年】 2018
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて、講義で配布するレジユメで指示する。
備考 (Other Information)	<ul style="list-style-type: none"> ・講義には、テキストおよび電卓(12桁以上、大きさ：10cm×15cm以上のものが望ましい)を携行すること。 ・私語厳禁を徹底する。 ・授業の進捗等を判断し、授業計画を変更する場合がある。
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	メールによる予約。